



業の最先端の場所から沢に入り、10:40遡行開始。きれいな水が流れているが、沢そのものは平凡である。伐採地より下流部では何カ所かで見られたナメも、1カ所申し訳程度に出てきただけ。滝も終了間際になって、1mの小さなものが見られただけであった。11:20遡行終了とする。 (記)

[タイム] 出合(10:40)→遡行終了(11:20)

### 天王川(梓川)左支沢

1990年10月14日

L

林道終点到車を止め、沢ぞいに続く山仕事道を利用しながら、進む。沢には何もない。地図上の道は、途中から嶺を越え登っているが、実際には沢にそって奥まで続いている。道が不明瞭になってからは沢の中を進むが、トゲトゲのヤブがひどくて進めない。源頭の樹林帯も間近となった所で、遡行終了とする。

(記)

[タイム] 林道終点(9:35)→遡行終了(10:55)

### 砂川左俣

1990年9月16日

L

中和田集落から川ぞいの林道を進み、砂防ダム手前の橋のたもとに車をデポする。川ぞいの林道をなおも進み、砂防ダムの所から入渓する。今回は豪士山に登る手段としての沢登りなので、最短の左俣をつめる。

